

## 《どうでもいい話、その 514》

### どうでもよくない皆様へ

前回のどうでもいい話（最近の子供は大人びている）に対し“ミーツー”のご返事を数名の方から頂きました。その中で「最近の小学校の授業は、どんなことを教えているのだろう」とのご意見がありましたので、ボランティア活動を行った先日の授業の状況を述べます。1年生の特別支援学級児童を普通学級へ連れてゆき、国語の授業を受けました。授業内容は、クラスの児童を3班に分け、班の中で一人ずつ夏休みの宿題「夏休みにしたこと」を発表し、質問に答えるというものです。最初に先生が、進め方、話し方、聞き方、質問の仕方、答え方、姿勢、などの注意点を詳しく黒板に書き、児童もノートに書き写して始めましたが、児童たちは、それを忠実に守り、全員が発表し質問していました。この授業で子供たちは、体験談として整理したことを話す、人の話しを聞く、自分の意見をまとめ質問する、質問に答える、コミュニケーションを図り時間配分しながら進行する、ルールを守る、等々の学習をしたと思います。我々の小学校の授業は、教師が一方向的に教え、この様な自主的にグループで考えながらの授業はありませんでした。まして、学校教育を始めて半年足らずの5～6歳の1年生に対し、この様な人間社会にとって大事なことを、主体的に考えさせ教育するレベルの高い授業に感心するとともに、日本の将来も大丈夫と心強くなりました。

岩波より